



新毎日

夕刊

1月5日(土)

2019年(平成31年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

痴漢いかんバッジ



●痴漢抑止バッジ大阪市内で、反橋希美撮影●痴漢抑止のバッジデザインコンテストで最優秀賞を受賞した山本千春さん（東京都内）



大阪の団体 商品化

「私たちは泣き寝入りしませんが」「痴漢は犯罪です」といった言葉を記した缶バッジなどの商品化を民間団体が進めている。意思表示することで被害抑止につながることに、痴漢が多発している現状への認識を深め、社会全体の性暴力を許さない意識を高める狙いもある。

「泣き寝入りしない」意思表示

「私たちが泣き寝入りしませんが」「痴漢は犯罪です」といった言葉を記した缶バッジなどの商品化を民間団体が進めている。意思表示することで被害抑止につながることに、痴漢が多発している現状への認識を深め、社会全体の性暴力を許さない意識を高める狙いもある。

「見てるぞ、捕まえるぞ」と言わんばかりに、周囲に目を凝らす警察官と女子高生。一般社団法人痴漢抑止活動センター（大阪、松永弥生代表理事）が全国から募集した缶バッジのデザインコンテストで昨年12月8日、最優秀賞を受賞した東京都の専門学校生、山本千春さん（23）の作品だ。

コンテストは4回目で、731作品の応募があった。選ばれた6作品を3月に商品化し、大阪メトロ構内の駅売店などで1個540円で販売する。きっかけは、警察庁によると、2017年に都道府県の迷惑防止条例に違反した痴漢の摘発件数は2943件だった。NPO法人しあわせなみ

だ（東京、中野宏美理事長）は、無料通信アプリLINE（ライン）用スタンプを使って抑止活動に取り組み。スタンプのデザインを考えて楽しみながら、性暴力をなくす知恵を出し合うイベントを昨年10月、東京都内で開いた。

「他にも悩んでいる人はいるはず。缶バッジにしてはどうか」と提案。全国からデザインと資金を募るプロジェクトを約3年半前、一緒にスタートさせた。

警察庁によると、2017年に都道府県の迷惑防止条例に違反した痴漢の摘発件数は2943件だった。

盗撮やのぞき見、強制わいせつに該当するものは含まれていないので、実際の被害者はもっと多い。松永さんは声を上げるのはハードルが高い。この数字は氷山の一角だろう。

参加者がアイデアを出したのは「女子高生が痴漢に遭った友達を励ますスタンプ。気持ちを想像し、キャラクターやせりふを練った。「あなたは悪くない」というせりふがほしい」「怒ると針を出すハリネズミのキャラクターが良い」。アイデアを基に、デザイナーがスタンプを作成。1月にも商品化されるといふ。